

# 女性も男性もいきいきと暮らせる社会を目指して ～働き方を考えてみませんか？～

国では、平成27年12月25日に第4次男女共同参画基本計画が策定されました。この計画において主軸となるのが、「働き方改革」です。最近、新聞やニュースなどでも取り上げられているため、見聞きしたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「働き方改革」とは、性別に関わりなく、働きたい人が働きやすい社会を目指し、労働環境や社会制度・慣行、生活などの見直しを行っていく取組をいいます。「労働環境の改善なんて、自分の力ではできない」と思っていないですか。しかし、身近なところにも「働き方改革」のヒントがあるといわれています。

6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」です。この機会に、全ての人が働きやすい環境づくりを目指して、まずは小さな意識改革から始めてみませんか？



国立女性教育会館事業課  
専門職員 引間 紀江さん

働き方改革を始めたとした男女共同参画の現状や課題について、国立女性教育会館（NWECC）の引間専門職員に話を伺いました。

制度導入だけでなく、職場風土づくりも大切です。

―男女共同参画における働き方改革として、どんな取組が考えられますか。

男女共同参画は「女性の権利獲得」という視点で見られがちですが、女性だけでなく、誰もが働きやすく生きやすい社会や環境を作ることが目的です。権利を手に入れると同時に、責任を分かち合うという感覚も必要になります。業種によって働き方は異なりますが、ポイントは長時間労働などに代表される「男性中心型労働慣行」の是正があげられます。企業の取組としては、コアタイムを決めた勤務やテレワーク（※）など、働き方を自分の裁量で決められる制度を導入することに加え、制度を使いやすくする職場

の雰囲気づくりも大切です。

※テレワーク制度とは？  
テレワークとは、「ICT（情報通信技術）を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方」をいいます。



―NWECCで導入している制度はありますか。

短時間勤務制度や男性職員の育休制度、さらに職種によっては勤務の一部にテレワーク制度を導入しています。通勤時間が2時間以上かつたり家族の介護にあたる職員にとっては、都内での打ち合わせなどにかかる移動時間の短縮や資料作成において業務の効率化が図れています。

―これからは、どんな意識を持つて働くべきだと思いますか。

職場の全員が常と同じようにフルタイムで働くことは難しいと理解することが第一です。子育てや介護などに生活の比重を置かないといけない時期もあります。今いるメンバーで効率よく働く方法を考えなければならぬと思います。本人や家族、パートナーの状況によって「男性が仕事、女性が家庭」という選択ももちろんあります。要は「男性だから、女性だから」という理由ではなく、

状況に応じた柔軟な選択ができることが必要ではないでしょうか。

男女共同参画は、男性にとっても権利です。

―男女共同参画や働き方について、誤解があると感じる部分はありますか。

よくあるのは「女性が優遇されすぎではないか」「逆差別にならないか」などの意見です。男女共同参画とは、女性だけを優遇しようという施策ではありません。例えば「男らしさ」を求められる男性が家庭や職場で辛い思いをしている事例も多くあり、「自殺問題は男性問題」とまで言われています。また、企業に雇用され報酬を得るだけが「仕事」ではないという、考え方の変換もぜひ行なってほしいです。

―他に、どんな働き方が考えられますか。

一つには、起業という選択肢があります。これは、新たな雇用の創出にも繋がります。また、地域活動やPTA活動など、社会や組織に貢献することも、社会参画の一つです。

―働きやすい環境づくりのために、必要なことは何ですか。

ダイバーシティ（※）、つまり個々の多様性を認めることが大切です。「新卒で入社した企業に一生勤める」という考

えや状況は薄れつつあります。起業や転職、日本で働く外国人の増加も予想されます。多様性を認め合い、個性や特性をビジネスに活かしていくことが求められます。経済産業省は、女性活躍推進に優れた上場企業を「なでしこ銘柄」として選定していますが、「女性の活躍」のみを目的としているものではありません。女性や障害者が働きやすい環境は、すべての人にとって働きやすい環境であるといわれています。

※ダイバーシティとは？  
性別、年齢、国籍等にかかわらず、多様な人材の「違い」を尊重し受け入れ、それを活かすことをいいます。



「学び」が人生の選択肢を広げます。

―啓発や教育に関わるNWECC独自の取組などを紹介していただけますか。

特徴的なものを一つご紹介すると、毎年「女子中高生夏の学校」という事業を行っています。これは、女子中高生を対象に、理系に進みたい生徒や、進路を迷っている生徒に対して、理系としての将来はどんな道があるかを伝える、合宿形式の体験型サイエンスプログラムです。しかしせっかくこのプログラムで生徒達が力をつけても、家庭や学校で「女の子

普段できていないことは、非常時にはもっとできません。

―男女共同参画の視点から見る災害時の問題点などを教えてください。

東日本大震災後の被災地で行われた調査結果からは「日常の問題が、災害時に顕在化される」ということがわかっています。例えば、瓦礫の撤去など報償が発生する仕事は男性、炊き出しや子どもの世話など無償労働は女性と、性別役割分担がより固定化し強化される傾向があったことが報告されています。結果、男女で経済格差が生まれたり、個人の特性に合わない役割の押し付けに疲弊したりと、弊害が出てきます。また、災害のストレスから、DVや性的被害などといった人権侵害やトラブルが増加する傾向もありました。逆に、普段から自治活動がうまくいっている地域は、避難所運営もうまくいったという聞き取り調査の結果

※アンコンシャス・バイアスとは？  
「女性性文系、男性性理系」「女性は家事育児、男性は仕事」というような無意識の偏見のことをいいます。

普段できていないことは、非常時にはもっとできません。

―男女共同参画の視点から見る災害時の問題点などを教えてください。

東日本大震災後の被災地で行われた調査結果からは「日常の問題が、災害時に顕在化される」ということがわかっています。例えば、瓦礫の撤去など報償が発生する仕事は男性、炊き出しや子どもの世話など無償労働は女性と、性別役割分担がより固定化し強化される傾向があったことが報告されています。結果、男女で経済格差が生まれたり、個人の特性に合わない役割の押し付けに疲弊したりと、弊害が出てきます。また、災害のストレスから、DVや性的被害などといった人権侵害やトラブルが増加する傾向もありました。逆に、普段から自治活動がうまくいっている地域は、避難所運営もうまくいったという聞き取り調査の結果

ひきまのりえ 引間 紀江さん  
教育相談員等を経て、2007年国立女性教育会館に入職。現在は男女共同参画推進に関わる人材育成の専門的研修の企画・運営にあたっている。専門は社会教育、体験学習法。

―国の男女共同参画に対する取組の変遷について教えてください。

現在、第4次男女共同参画計画が策定されています。第1次男女共同参画計画が策定された頃は「女性の社会進出」という言葉が叫ばれた時代でした。まずは「啓発」を目的とし、既にできあがった社会の枠組みに女性が「参加」することが目標でした。第2次計画、第3次計画で

―嵐山町における男女共同参画の現状と、今後の取組については、どう考えられますか。

私は第3次嵐山町男女共同参画プランの策定にも関わらせていただきました。町民の皆様へのアンケート調査の結果や自由記述欄の回答から、あらためて、男女共同参画は特別の誰かの話ではなく、働くこと、学ぶことなど、私たち一人ひとりの日常生活に直接関わる問題であることをご理解いただきたいと思います。「まちづくりはひとづくり」という言葉があります。まずは、教育や啓発に力をいれていくことを通して、よりよい地域づくりに向けたお手伝いができればと思っています。



国立女性教育会館が編集した書籍『地域連携による女性活躍推進の実践』

―ありがとうございました。